

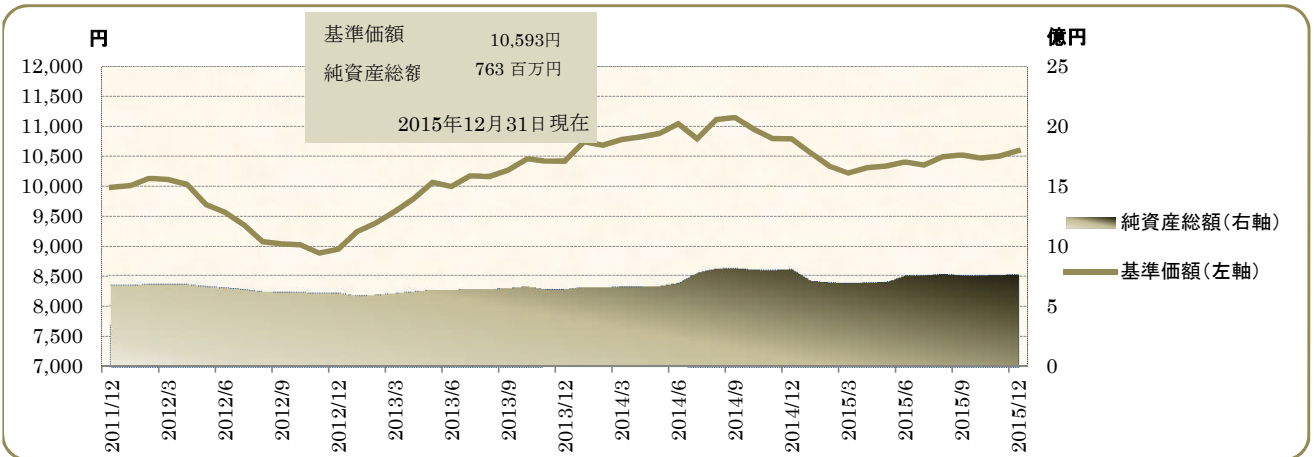
エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日 2015年12月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

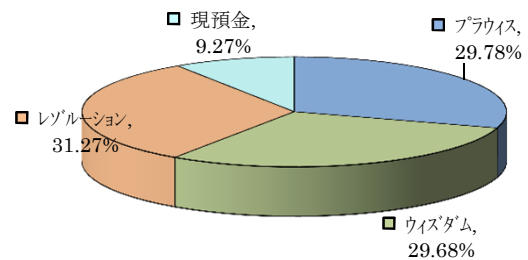
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年12月31日	
基準価額:	10,593円	対前月比 91円
純資産総額:	763百万円	対前月比 +5.6百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	0.68%
基準価額騰落率	6ヶ月	1.79%
設定来	ファンド	5.93%
基準価額騰落率	TOPIX	113.85%
	日経平均	126.55%

投資対象ファンドへの資産配分 (2015年12月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

12月の株式相場は、日経平均で3.61%下落の19,033.71円、TOPIXで2.09%下落の1,547.30ptとなりました。日米欧の金融政策を受けて上下に振れる展開となりましたが、月を通してみると原油価格下落や円高進行を背景に大幅安となりました。

上旬は、軟調に推移しました。3日にECBによる追加緩和が発表されたものの、市場の期待値以下であったことから円高株安が進む展開となりました。また原油安も相場の重しとなり資源関連株を中心に下落しました。

中旬は、FOMCと日銀金融政策決定会合を受けて振れ幅の大きい相場となりました。16日にはFRBが9年半ぶりの利上げを決定、先行き不透明感が後退したことから円安株高となりました。18日場中には日銀による新たな施策が発表され、一時はこの施策が追加金融緩和と解釈されたため一気に円安株高が進み日経平均は19,800円台まで上昇、今月の下げを埋める展開となりましたが、補完措置に過ぎないとわかると急速に下げ19,000円を割り込みました。この日の日経平均の値幅は886円と非常にボラティリティの高い相場となりました。

下旬は、クリスマス休暇や年末を前に参加者が少ない中で方向感を欠く展開となりました。薄商いの中、年末にかけてはやや持ち直し、日経平均は19,000円台を回復し今年の取引を終えました。

セクター別騰落率では、水産・農林業、空運業、食料品、医薬品、陸運業などのディフェンシブ業種が上位となり、その他製品、パルプ・紙、証券・商品先物取引、金属製品、ゴム製品が下位となりました。

東証一部の売買代金は、例年通り年末にかけて参加者が減少したことから1日当たり2.26兆円と11月より減少しました。

ファクター面では、PERやPBRなどのバリュエーションファクターがマイナスとなりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

〈ファンド運用状況〉

12月の運用成績はJPYクラスで+0.15%となりました。月間を通してバリュエーション指標が効かなかったことに加え、内需ディフェンシブセクターを中心に順張り色が強い相場展開が続いたため、損益はほぼフラットとなりました。

セクター別の損益では、紙パルプ、化学、金属セクターでプラスとなり、食品、電機、鉄鋼セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

1月の株式市場は引き続き上値の重い相場展開を想定します。12月の下落によりテクニカル指標面での割高感は解消されましたが、中東情勢の緊迫化や中国経済に対する懸念が再燃していることから、当面値動きが荒い相場展開が続くことが予想されます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウイズダム】

〈ファンド運用状況〉

12月の運用成績はJPY-Fクラスで+0.54%でした。今月は割安株がアンダーパフォームする中、素材、家庭用品、電力等のセクター内の銘柄選択効果に加えてロングサイドの中小型成長株がアウトパフォームしたことでプラス収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで北海道電力(9509)、イーレックス(9517)、ショートポジションでは資生堂(4911)、北越紀州製紙(3865)がプラス収益に寄与しました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

今月の株式市場は横ばいを予想します。サウジアラビアとイランの二国間の対立が中東全体の宗教対立の激化につながる可能性が高まっていることや中国経済の更なる減速懸念により、上値の重い相場展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

12月の株式市場は、先月来の反動から小型株がやや劣位に推移していましたが、月末にかけて急回復し、相対的にはほぼイーブンに終わりました。

スタイル的には、先月に続き、ローリスクとグロースが優位、バリュエーション劣位の展開であり、全体としてバリュエーションのポートフォリオにしている点からは厳しい環境となりました。

ポートフォリオは、引き続き、化学、建設などのセクター（個別銘柄の判断から結果的に電機）をオーバーウェイト、特に情報サービスを大きくオーバーウェイトしています。

ある程度確信的に一部グロース銘柄の組入を維持しているため、ファンド全体ではバリュエーション傾向であるものの、これらの小型株らしいロング銘柄がプラスに寄与しました。

テクノロジー関連ながら中村超硬(6166)、海外進出も見えてきたアイスタイル(3660)など、個別要因により好調な銘柄のロングがプラスに寄与しました。一方、ロングは業績停滞の割安銘柄、ショートは高バリュエーション材料株のリバウンドがマイナス寄与しました。

全体として、好業績銘柄のロングによりパフォーマンス確保に至りました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

年明け以降、バリュエーション銘柄へのシフトを進めますが、小型株については引き続き、多数銘柄の安値放置、一部銘柄へのプレミアム付与のトレンドが継続する可能性もあり、定性評価を重視したポートフォリオを意識します。

ロング銘柄でバリュエーションに振ることより、ハイバリュエーションのショートを考え、グローバル景気運動銘柄はニュートラル、内需グロース銘柄ロングを維持する方針です。

極端な小型バイアスははやや解消し、ミッドキャップ以上については、ほぼニュートラルに近い状況となりましたが、個別性のあるスモールキャップのロング部分で、パフォーマンスの確保を狙います。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号
	加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号
	加入協会:日本証券業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。